

## 人生守則～廿字真言簡易注釈(伝統流)

忠	中心を忠とし、良心を中間に置き、正大光明に人となり物事をなして、心力を尽くし、地道で堅実に働き、正直で無私である。良心に忠であり、天地に忠であり、国に忠であり、家に忠であり、友に忠であり、事物に忠である。
恕	心が誠実で温厚である。相手の気持ちになって考える上に万物を許す。宥恕、寛恕の心を以て人に相對する。
廉	すべての事は四知(天が知り、地が知り、相手が知り、自分が知っている)の戒を守り、細心を払い省察し、取ってはいけない財物を取らず、節儉を本にする。
明	人として事理に通達しなければならない。物欲を取り除き、「酒」「色」「財」「氣」を見抜き、正気を養えば、自然に心根は光明になる。
徳	現代の国民として善良の品行、正直な行為、身を捨てる心を持たなければならない。人には「諸悪莫作 衆善奉行」の実践ができれば、即ち徳を修め天地に相応し、すると精神的に不死になれるのである。
正	誠意正心、修身齊家、私意を少しも起こさず、心が少しも曲がっていない。口は邪言なく、目は邪視なく、耳は邪聞なく、足は邪行なく、正気が溢れて、邪まな魔は自然に遠ざかっていく。
義	すべてのことは公正で合理であれば、当然やるべきことをやる。仁に当たりては譲らない、義を見て勇敢に行動する、生死も辞さない。
信	言行は一致し、始終変わらない。誠実で嘘をつかず、一諾千金(※約束したことは必ず守るべきこと)である。
忍	人が落ち込む時、胸を刺されたような思いとなる。小さなことを堪忍できず怨みを持ち続けるのは一時的なものになるが、大きなことであれば、残された禍害は一生になる。もし心がおだやかで気持ちを落ち着けられ、他人が耐えられない辛さを我慢し、憎しみの気持ちがなく、栄辱の念頭が起こらず、度量を大きくして、人が我慢できないことを我慢してこそ、憤恨の気が自然になくなる。世の中のすべては忍ができれば成功する、忍ができなければ失敗する。
公	人我を区別せず、個人的打算を持たず、剛正で偏らず、天下を公と為す。
博	聖人の道、仁愛の心を推し広め、世人を教化し、衆生を普く済度することは、即ち孟子の「身内への心を外にまで展開する」という意味である。

※ Apple の App Store または Android の Google Play で【愛廿字】と検索してスマホアプリをご自由にダウンロードしてご利用ください。

孝	父母即ち天地であり、「孝」の一字だけが十分天地の鬼神を感動させる。昔の人は「孝」を以て百行の基にした。しかし、今の人は孝道を知らず、その病根は父母の恩を知らないことにあり、逆に知っても、また貨財妻子に惑わされてしまう。父母が日に日に衰えていき、直ちに親孝行をしなければ後で後悔しても手遅れになる。羊に跪いて乳を飲む仁あり、鳥に反哺の義あり、禽獸 <small>きんじゅう</small> さえ本に報いることを知っている、それなのに人が孝行奉養の道を知らなければ、禽獸の方より劣っている。
仁	仁は上天の生命を惜しむ徳目で、生生流転の道である。万物の発育はすべて「仁」を本にする。もし果実の核に仁が無ければ、生命力が失われてしまう。天下の人々には私心を持たず、己を愛する心を薦めて人を愛するように、また人を愛する心を薦めて物を愛するように、これが即ち天の恩を報いることになる。
慈	仁愛の心を以て、人を苦難から救い、穏やかでにこやかな態度を以て人に接する。
覺	是非善悪を見極めることができれば、是と善のものを選んで従い、非と悪のものを除いて遠ざける、即ち「覺」の働きである。すべて清心寡欲、養性修真でいれば、吉凶禍福を常に予知できるようになり、これは真心によって悟りを開く効果を生んだのである。
節	窮地に陥り行き詰まって苦境に立たされた時、してはいけないことはせず、乱世にあって生死の際に臨んでも節操を変えない者は、古代の烈女が二夫をかえず、忠臣が二君に仕えなかったように、すべて節の一字でその志を固めて、不撓不屈の気概になり、これは天地正気に寵愛されるものである。また「節」は度をこえないようにおさえる意味でもある。
儉	生活は素朴で節制がある。知足して本分を守り、福を惜しみ徳を惜しむ。
真	人と接するに虚なく偽りなく、自分で自身を律して行いにおいて穢れた部分を取り除き清い部分を残し、一つが真になればすべて真になり、自然に本来の自分に還る。
禮	尊卑を定め、年齢の順を付け、男女を分け、貴賤を明らかにして、立身処世に当たっては、敬って礼儀正しく、規則を守って行動する。
和	宇宙天理の真相は「和(=和諧)」の一字にある。大きく言えば、太陽系の個々の天体の運動に和がなければ混沌があり、物質と自然に和がなければ生命力が失われる。小さく言えば、人間の靈魂と肉体に和がなければ死があり、人類の心理的感応に和がなければ憎しみが生じ、人と人の間に和がなければ争鬭訴訟が起き、社会秩序に和がなければ変乱があり、国と国の間に和がなければ戦争が生じ、世界に平和は訪れず、科学と哲学に和がなければ真理の追求は困難になる。故に天地の基、立国の本、人としての道は、中和にある。